

ラテンアメリカ時事解説

ラテンアメリカ諸国との関係拡大を図るトリニダード・トバゴ

安間 美香

はじめに

トリニダード・トバゴは、1962年に独立して以来、主に旧宗主国の英国、米国およびカナダ、近隣のカリコム諸国¹との関係を重視してきた。また、歴史的に強い繋がりを持つインドに加え、近年は中国との関係が急速に発展している。ラテンアメリカ諸国²との関係を見ると、多国間関係においては、米州機構(OAS)やカリブ諸国機構(ACS)等のサブ・リージョナルな地域機構を通じて関係を発展させてきた一方、二国間関係においては、貿易関係が中心であり、その対象は南米の一部の国に限定されていた。しかしながら、最近では中米諸国との貿易関係が拡大傾向にあり、官民挙げて同地域へのアプローチが盛んになっている。

本稿では、これまでのトリニダード・トバゴと諸外国の関係を概観し、近年同国が近隣のラテンアメリカ諸国との関係拡大を通じ、外交の多角化を推進している状況を二国間

関係を中心に明らかにすることを目的としている。

1. トリニダード・トバゴ概観

トリニダード・トバゴは、カリブ海小アンティル諸島の南部に位置し、千葉県に相当する5,128平方キロメートルの面積を持つ(図1)。2010年の人口は約132万人であり、2000年のエスニック別人口構成は、東インド系が40%、アフリカ系が37.5%、混血が20.5%、その他が2%である³。主要産業のエネルギーおよび鉄鋼はトリニダード島を中心に展開されており、このうちエネルギー部門はGDPの約4割を占め、液化天然ガス(LNG)の輸出量は米州地域最大、アンモニアおよびメタノールの輸出量は世界最大レベルを誇る。一方、トバゴ島は他の東カリブ諸国と同様、観光業が経済の基盤となっている。2011年における一人当たりGDPは17,158米ドルであり、ラテンアメリカ・カリブ域内ではバハマに次いで第2位に位置している⁴。

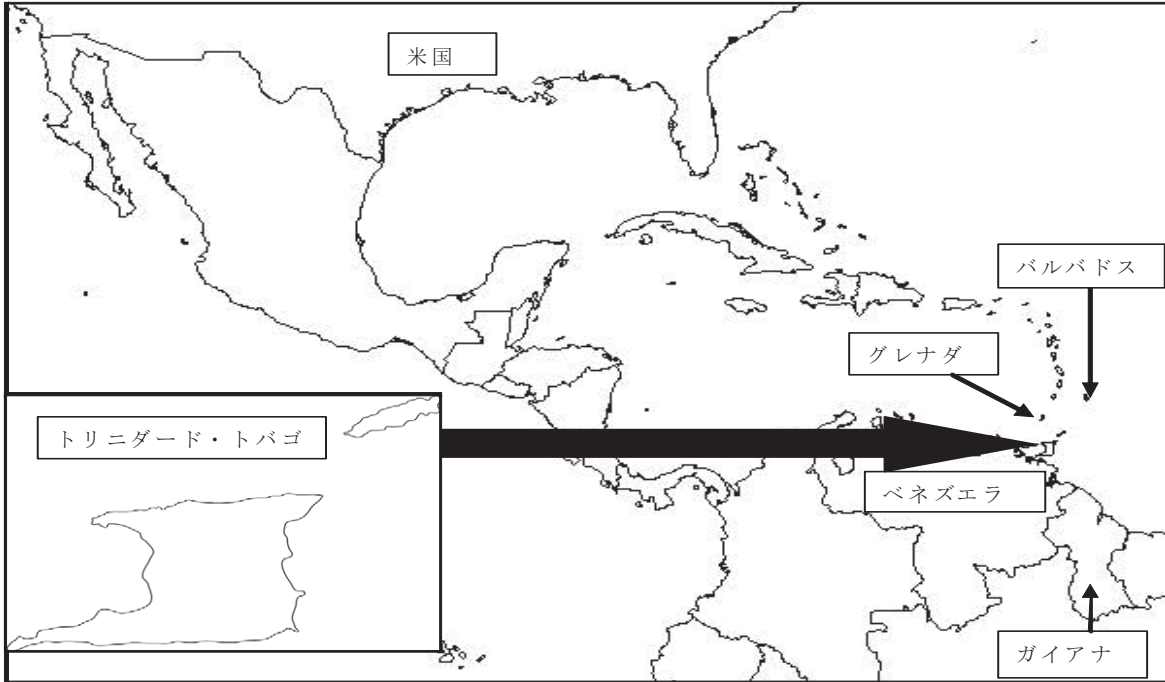
¹ カリブ共同体(Caribbean Community and Common Market: CARICOM)の加盟国。現在の加盟国は、アンティグア・バーブーダ、バハマ、バルバドス、ベリーズ、ドミニカ国、グレナダ、ガイアナ、ハイチ、ジャマイカ、セントクリストファー・ネイヴィス、セントルシア、セントビンセントおよびグレナディーン諸島、スリナム、トリニダード・トバゴ、英領モンセラットの14ヶ国1地域。

² 本稿においては、アルゼンチン、ボリビア、ブラジル、チリ、コロンビア、コスタリカ、キューバ、ドミニカ共和国、エクアドル、エルサルバドル、グアテマラ、ホンジュラス、メキシコ、ニカラグア、パナマ、パラグアイ、ペルー、ウルグアイ、ベネズエラの19ヶ国とする。

³ トリニダード・トバゴ中央統計局(CSO), Statistics: Key Indicators, <http://www.cso.gov.tt/statistics/Pages/KeyIndicators.aspx>
Caricom Capacity Development Program (CCDP), 2000 Round of Population and Housing Census Data Analysis Sub-Project, *National Census Report Trinidad and Tobago*. <http://www.cso.gov.tt/news/Announcement%20Document%20Library/TrinidadandTobago2000NationalCensusReport.pdf>

⁴ IMF, *World Economic Outlook Database*, April 2012.

図1 トリニダード・トバゴ地図



出所：筆者作成

2. 独立後のトリニダード・トバゴと諸外国との関係

(1) 概観

トリニダード・トバゴは、2012年5月現在、約120ヶ国と外交関係を樹立している。このうち、米国、英国およびカナダとは、貿易・投資、医療、治安支援等の分野で関係を発展させてきた。留学や就職等でこれらの諸国に滞在するトリニダード・トバゴ人は多く、主要都市にはコミュニティが形成されている。近隣の非スペイン語圏のカリブ諸国とは、カリコムを通じ経済および貿易関係、外交等の調整を行っており、非常に緊密な関係にある。このほか、英連邦の一員として、アフリカや大洋州等、他地域の元英領諸国とも親交を深めている。近年は、歴史的な関係が深いインドに加え、中国との関係が急速に発展しており、トリニダード・トバゴ国内では大型建設プロジェクトを担う中国企業や小売業を営む中国人移民のプレゼンスが高まりつつある。

(2) ラテンアメリカ諸国との関係

2012年5月現在、トリニダード・トバゴはラテンアメリカの全19ヶ国と外交関係を持つ(表1)。最も早く外交関係を樹立した国は隣国ベネズエラであり、ニカラグアとは2011年に外交関係が成立した。

カリブ海沿岸のスペイン語圏諸国はトリニダード・トバゴからは地理的に近いが、同国との間で直行便が運行しているのは、ベネズエラおよびパナマのみである。その他の国については、米国(マイアミ)或いはパナマ等を経由せざるを得ず、移動に最低一日を要する。また、トリニダード・トバゴでは、生活物資の大半を米国からの輸入に依存しているほか、音楽、テレビおよび映画においても米国文化が広く浸透している。留学・就職先としては、先述のとおり、同じ英語圏である米国、英国及びカナダが好まれる。したがって、ラテンアメリカ諸国との人的交流はそれほど活発ではなく、貿易関係が中心であった。

表1 トリニダード・トバゴとラテンアメリカ諸国との外交関係樹立年

国名	年
アルゼンチン	1965
ウルグアイ	1968
エクアドル	1967
エルサルバドル	1994
キューバ	1972
グアテマラ	1994
コスタリカ	1971
コロンビア	1968
チリ	1964
ドミニカ共和国	1968
ニカラグア	2011
パナマ	1994
パラグアイ	1994
ブラジル	1965
ベネズエラ	1963
ペルー	1968
ボリビア	1999
ホンジュラス	1994
メキシコ	1966

出所：トリニダード・トバゴ外務・情報省へ照会の上筆者作成

隣国ベネズエラに関し、同国との距離は僅か10km、カラカスには約1時間、マルガリータ島には約30分で移動することが可能であり、他のラテンアメリカ諸国と比較すると、二国間の往来は盛んである。トリニダード・トバゴに移住したベネズエラ人も多く、トリニダード島東部にはベネズエラ系コミュニティが存在する。他方、外交関係に関しては、マニング（Patrick Manning）前政権が2005年6月のペトロカリブ創設時にエネルギー協力協定に関する最終合意への署名を拒否する等、関係悪化に至った時期もあった。米国と密接な繋がりを有し且つエネルギー輸出国であるトリニダード・トバゴにとって、ベネズエラのカリブ地域への影響力拡大は懸念事項であり、かかる理由から米州人民ボリバル同盟（ALBA）やペトロカリブとは距離を保ってきた。

キューバに関し、トリニダード・トバゴ政府は、米国の対キューバ制裁解除決議に対し、1993年以降は賛成票を投じているほか、キューバのOAS復帰を求めてきた。その背景には、同じカリブ地域に属するキューバへの連帯感がある。他方、各種分野で密な関係を構築してきた米国及びカナダの意向を無視することは出来ず、他のラテンアメリカ・カリブ諸国と同様のジレンマを抱えてきたと言える。

3. 近年のトリニダード・トバゴとラテンアメリカ諸国との関係

(1) 経済関係の拡大

パサード＝ビセッサ（Kamla Persad-Bisessar）現政権は、2010年5月の政権発足以来、カリコム域外への外遊を積極的に展開している。中でも突出しているのが、BRICs諸国、ラテンアメリカ諸国への訪問である。同首相は、これまでメキシコ、ブラジル、ベネズエラ、コロンビア、パナマの5ヶ国を訪問しており、このうちパナマについては、2012年4月までに2回の訪問を果たした。

外遊増加の背景としては、LNGの新たな輸出先確保の必要性、産業の多角化推進に伴う市場開拓の必要性が考えられる。2005年の時点ではトリニダード・トバゴで生産されたLNGの89%が米国向けに輸出されていたが、2011年にはそのシェアが19%にまで落ち込んだ⁵。

シェールガスの開発及び生産を進める米国が天然ガス輸出国へと転換する日はそう遠くないと見られている中、トリニダード・トバゴとしては、米国に代わる市場を早急に開拓する必要に迫られている。また、同政権は、エネルギー

⁵ 2012年1月22日付「トリニダード・ガーディアン」紙「T & T's LNG export to US drops」
<http://www.guardian.co.tt/business/2012-01-22/tt%E2%80%99s-lng-export-us-drops>

部門への依存脱却を目指し、IT産業等を中心に産業多角化政策を進めており、かかる点において、地理的に近く急成長を遂げるラテンアメリカ諸国はそのターゲットになり得る市場として注目を集めている。

トリニダード・トバゴ貿易産業省によれば、2010年1-10月期の主要輸出先のトップ10内に、コロンビアおよびチリが入っている⁶。また、2005年上半期、2011年上半期におけるトリニダード・トバゴとラテンアメリカ全体の輸出入額を比較すると、輸出入額ともに微増していることが分かる(表2)。このうち輸入の伸び率が高い国のトップ3には中米諸国、輸出の伸び率が高い国のトップ3には、アルゼンチン、ウルグアイ、コスタリカがランクインしている。ト

リニダード・トバゴからラテンアメリカ諸国への主な輸出品目は、LNG、原油、アンモニア及び鉄鋼、ラテンアメリカ諸国からトリニダード・トバゴへの主な輸出品目は食料品であり、ほぼ全ての国でトリニダード・トバゴ側の輸出超過となっている。

なお、近年急速に発展しているのが、中米諸国との関係である。本年3月から4月にかけて、パナマとの間で部分的貿易協定及びエネルギー分野における協力協定が署名されたのに加え、現在両国間ではLNG、アスファルト及びジェット燃料等の輸出に係る協議が行われている⁷。このほか、グアテマラ及びエルサルバドルとも、部分的貿易協定の締結に向けた協議を実施中で

表2 トリニダード・トバゴ・ラテンアメリカ諸国間の輸出入額

(単位：1,000トリニダード・トバゴドル*)

	2005年1月-6月		2011年1月-6月		輸入伸び率 (%)	輸出伸び率 (%)
	輸入	輸出	輸入	輸出		
アルゼンチン	67,235	680	62,511	1,193,561	-0.1	1,755.3
ウルグアイ	35,072	35	21,022	21,533	-0.4	621.3
エクアドル	219,111	73,612	9,988	79,427	-1.0	0.1
エルサルバドル	6,891	29,686	4,369	40,989	-0.4	0.4
キューバ	217	58,694	150	45,091	-0.3	-0.2
グアテマラ	11,685	131,278	67,549	26,929	4.8	-0.8
コスタリカ	40,746	3,311	107,672	310,928	1.6	92.9
コロンビア	800,924	102,458	4,097,369	1,135,571	4.1	10.1
チリ	21,758	23,166	54,679	357,346	1.5	14.4
ドミニカ共和国	28,954	416,902	88,531	996,131	2.1	1.4
ニカラグア	112	50,524	3,348	44,397	29.0	-0.1
パナマ	18,910	88,956	129,168	266,338	5.8	2.0
ブラジル	2,350,873	151,528	1,811,151	1,184,823	-0.2	6.8
ベネズエラ	1,011,824	42,531	44,145	26,405	-1.0	-0.4
ペルー	61,818	37,206	38,680	78,780	-0.4	1.1
ホンジュラス	6,952	147,070	22,701	15,146	2.3	-0.9
メキシコ	121,525	531,357	303,790	256,452	1.5	-0.5
ラテンアメリカ計	4,804,606	1,888,990	6,866,821	6,079,848	0.4	2.2
総計	16,724,151	27,262,332	27,180,072	41,720,238	0.6	0.5

*1 トリニダード・トバゴドル=6.3米ドル
(2012年5月現在)

出所：トリニダード・トバゴ中央統計局データより
筆者作成

⁷ 2012年3月13日付トリニダード・トバゴ首相府プレスリリース “Prime Minister Witnesses Signing of a Memorandum of Understanding with Panama”, [http://www.opm.gov.tt/media_centre.php?mid=14&eid=1572012年5月15日付トリニダード・トバゴ首相府](http://www.opm.gov.tt/media_centre.php?mid=14&eid=1572012年5月15日付トリニダード・トバゴ首相府プレスリリース)
プレスリリース “Trinidad and Tobago, Panama to strengthen Energy, Transport links”
http://www.opm.gov.tt/media_centre.php?mid=14&eid=190

⁶ トリニダード・トバゴ貿易・産業省 *A Guide to Investing in Trinidad and Tobago (2011)*, p.37

ある。さらに、トリニダード・トバゴ政府は、パナマにおける在外公館開設を示唆しており、同政権がパナマ運河拡張工事の2014年竣工に伴うラテンアメリカ及びアジア市場へのアクセス拡大を睨み、拠点確保に努めている様子が窺える⁸。

(2) 医療分野における協力

トリニダード・トバゴ国民の懸念事項として挙げられているのは、不十分な医療体制である。高学歴者・専門職従事者の海外への「頭脳流出」は医療分野にまで及んでおり、熟練したスタッフの不足が招く劣悪な医療サービス、誤診による医療事故等がしばしば報告されている。このため、同国政府はキューバ、フィリピンおよびナイジェリア等から医師・看護師の受入れを行っている。キューバについては、マニング前政権時代に2年契約で受入れを開始、第1陣が任期満了を迎えた2011年には第2陣の受入れが決定し、2012年11月までに125名が到着する予定となっている⁹。

おわりに

新市場の開拓を最優先課題とするトリニダード・トバゴにとって、ラテンアメリカ諸国との関係拡大を通じた外交の多角化は急務である。また、ラテンアメリカ諸国にとっては、米州最

大のLNG輸出国であり、一人当たりGDPがラテンアメリカ・カリブ地域内で第2位に位置するトリニダード・トバゴは、注目すべき「ニッチ市場」である。

両者の関係は、今後も経済関係を中心に発展していくことは想像に難くないが、持続可能な開発、気候変動、麻薬撲滅及び治安改善は、双方が共通して抱える問題であり、今後はこれらの分野での協力関係拡大も期待出来る。

なお、人的交流面に関しては、現在複数のラテンアメリカ諸国との間で研修或いは語学留学プログラムが実施されているほか、トリニダード・トバゴ国内の一部の義務教育機関では、必須科目としてスペイン語が試験的に導入されており、同国政府がラテンアメリカ諸国との関係発展を見据えた人材育成に本腰を入れている状況が窺える。

今後の課題としては、他の東カリブ諸国とは産業構造やエスニック人口構成が異なるにも関わらず、「カリブ海諸国」一括りにされがちな中で、ラテンアメリカ側にいかにトリニダード・トバゴの独自性をアピールしていくかという点が挙げられる。他方、外交の多角化の必要性を感じつつも、「成果のない外遊」に対する国民からの評価は厳しく、パサード＝ビセッサ政権としては、より戦略的なラテンアメリカ諸国へのアプローチが求められている。

⁸ 2012年5月15日付トリニダード・トバゴ首相府プレスリリース “Trinidad and Tobago enhance diplomatic, trade presence in Panama”
http://www.opm.gov.tt/media_centre.php?mid=14&eid=189

⁹ 2011年10月17日付「トリニダード・エクスプレス」紙 “More Cuban medics to take up the slack”,
http://www.trinidadexpress.com/news/More_Cuban_medics_to_take_up_the_slack-132027403.html
2011年10月30日付「ニュースデイ」紙 “Doctors may do all-week surgeries!”
<http://www.newsday.co.tt/news/0,149745.html>
2012年5月11日付「トリニダード・エクスプレス」紙 27面、”Fuad: Staff shortage relief by month’s end”

※本稿は、筆者個人の見解を記したものであり、在トリニダード・トバゴ日本国大使館及び外務省の見解を示すものではない。

(やすま みか 在トリニダード・トバゴ日本国大使館専門調査員)